ペットの食育で必要な考え方とは？

**大切な我が子のために安心で安全なものを食べさせてあげたい！
ワンコのママパパなら誰もが気にしていること
ペイクマガジン編集部は
10犬10色のワンコと向かい合いあなたのワンコだけの
手作りオーダーメイド・ドックフードを手がける
株式会社ランフリーの
代表取締役・曽我部裕さんにお話をうかがった**

ONE to WAN Vol.2

Profile
曽我部 裕 Sogabe Hiroshi
食肉・食品加工関係に８年、ドッグフード開発・製造に１２年携わり、犬の食事について探求。
平成１８年５月　株式会社ランフリーを設立、代表取締役に就任。現在に至る。日本ドッグマイスター協会　評議員。
＜資格＞野菜ソムリエ、雑穀エキスパート、愛玩動物飼養管理士、食品衛生責任者

愛犬と一緒に生活する中で一番気になることが食事についてではないでしょうか。

食育とは、『オーナーと愛犬が心身ともに健全に暮らす』ための大切な要素の一つだと私は考えています。愛犬との幸せな生活を送る上で少しでもお役に立てれば幸いです。

まず、食事とは私たち人間にとっても愛犬たちにとっても、とても幸せなひと時です。

特に愛犬が自分の作った食事や自分が選んだ食事を美味しそうに喜んで食べてくれている時は、本当に幸せを感じるものです。

しかし、『こっちの方がおいしそうだから』、『こっちの方が喜んで食べてくれるから』とどんどんおいしいもの、喜んでくれるものを繰り返し与えた結果はどうなるでしょう。

愛犬は極度の偏食、オーナーは愛犬の偏食に悩み心の病に…。

このような状況に陥ってしまっている家族が実に多くいるのです。安全性についてはオーナーの思われるよう追求していけばよいことですが、美味しさの追求は時にお互いを不幸にすることがあることを忘れないでください。

では、食育としてどのような考え方が必要なのでしょうか。

大切なことは、『愛犬の性格、食欲、食事量をよく理解すること』です。

例えば、出された食事で好きなものしか食べず、好きなものが出てくるまでは頑固なまでに食べない性格の子。そのような子はとても賢い子なので、おいしいものを経験すればするほど更においしいものを要求してきます。その要求に応えてしまえばあなたの負けです。好きなものばかり食べていては栄養バランスなどあったものではありません。お互い不幸への第一歩です。愛する子の要求に応えることが愛情なのではなく、出されたものを食べさせるしつけこそが真の愛情です。

食欲のある子にはついつい多く食べさせてあげたいという親心。とてもよく分かります。

特にドライフードは見た目が少量ですので、与え過ぎてしまうことがあります。ドライフードは見た目以上に栄養価が凝縮している食べ物です。どんなに良いフードでも食べ過ぎては健康を害してしまうことを十分に理解してください。

最後に食育の考え方として必要なことは、『かわいい愛犬のためについ…』ではなく、『かわいい愛犬のために強い意思を持つ』ということです。

今まで『つい…』を繰り返してしまったあなた、気持ちを入れ替えて楽しい愛犬との生活を送っていただければと思います。

松田ランディ君のお食事
レシピの一部

Recipi

松田ランディ君のお食事
馬肉・蝦夷鹿＆ベジタブル・フルーツ

この子が我が家に来て何度もドライフードを試してきましたが一度も食べてくれることはありませんでした。もうこの子は生涯ドライフードを食べることはないだろうと諦めておりましたが、友人からの勧めもありランフリーのドライフードを試させていただきました。食べたんです！ガツガツと完食しました！家族でこんなに感激できたことはありません。感謝しております